

平成 22 年度 新国立劇場 高校生のためのオペラ鑑賞教室・関西公演

蝶々夫人

Madama Butterfly

尼崎市総合文化センター アルカニックホール | 2 回公演 | 全 2 幕 〈イタリア語上演／字幕付〉

初 演：1904 年 2 月 17 日 ミラノ・スカラ座

作 曲：ジャコモ・プッチーニ Giacomo Puccini (1858-1924)

台 本：ルイージ・イルリカ/ジュゼッペ・ジャコーザ Luigi Illica/Giuseppe Giacosa

演目選定にあたって

2005 年初演後、公演を重ねるたびに劇場を感動の渦に包む新国立劇場ならではの強いメッセージを持った人気プロダクションです。世界各地で様々な演出家が手がけている『蝶々夫人』、新国立劇場オペラは『夕鶴』に続く 2 作目の演出となった栗山民也は、死を以て愛を貫いた蝶々さんの世界を、舞台奥にアメリカのシンボルである星条旗がはためく空間で描いています。原作にみる西洋と東洋の主従関係が、今日の世界の構造と全く変わっていないことを暗示しています。ドラマチックな物語はイタリア・オペラの巨匠プッチーニの心に響く美しい音楽にあふれています。

作品解説

イタリア・オペラの巨匠プッチーニの三大傑作の一つで、その音楽の美しさと、劇的内容は、オペラ初心者から熱心なファンまで世界中で愛されています。有名なアリア〈ある晴れた日に〉の他、「さくらさくら」「越後獅子」等日本の伝統音楽や民謡の旋律が作品中にちりばめられているため、日本人にとって他のオペラとはまた一味違った魅力を感じる人気作品です。原作はアメリカの作家 J. L. ロングのベストセラー小説《蝶々夫人》。これを劇作家デヴィッド・ベラスコが戯曲化してアメリカで初演、大成功を収めました。丁度オペラ『トスカ』のロンドン初演で渡英していたプッチーニがこの芝居を観劇し、英語が分からなくても深く感動したことから、このオペラ化が実現しました。タイトルロールが日本人という設定であるため、三浦環や林康子、渡辺葉子、松本美和子といった日本人ソプラノ歌手の海外進出に大きく貢献した作品でもあります。数々の名作オペラを世に送り出したプッチーニは、自分のオペラを好まないといいながらも、「私のかわいい蝶々さんは大好きだ」と書き残しています。他にも『ラ・ボエーム』のミミや、『トゥーランドット』のリュウ、『西部の娘』のミニーなども、プッチーニが愛したヒロインとされています。いずれもほとんどが薄幸の佳人であり、純情可憐であり、または気丈に与えられた人生を懸命に生き、愛のためには死をも恐れないタイプの女性で、プッチーニはこのヒロインたちを愛し、自作の中で心に残る美しい音楽を与えて聴衆を魅了しています。

あらすじ

時は明治の頃、長崎の海を望む丘の上で、アメリカ海軍士官のピンカートンは、結婚斡旋人ゴローの仲介で15歳の芸者、蝶々さんを身請けする。純情な蝶々さんに対してピンカートンは日本に滞在する間だけの軽い気持ちで結婚式を挙げ、長崎駐在のアメリカ領事シャープレスに不誠実だとたしなめられる。やがてピンカートンはアメリカに帰国、彼との間にできた3歳の息子と女中のスズキは蝶々さんと3人で彼の帰りを待ちわびている。「ある晴れた日にピンカートンはきっと帰ってくる」とその日を夢見る蝶々さんは、ゴローが新しい結婚相手を薦めても耳を貸さない。一方、シャープレスはピンカートンがアメリカで正式に結婚したことを知るが、蝶々さんにその真実を語ることができない。そして運命の時がやってくる。ピンカートンは、妻ケートをつれて長崎に降り立ち、思い出の丘の上の家を訪れるが、シャープレスから、蝶々さんが待ち続けていたことを聞き、居たたまれなくなってその場から走り去る。全てを悟った蝶々さんは、我が子をケートに渡す決断をすると、父の形見の短刀で自害して果てる。

G. プッチーニ
蝶々夫人

Madama Butterfly / Giacomo Puccini

全2幕〈イタリア語上演／字幕付〉

指揮……………三澤洋史
Conductor Misawa Hirohumi

演出……………栗山民也
Production Kuriyama Tamiya

美術……………島次郎
Scenery Design Shima Jiro

衣裳……………前田文子
Costume Design Maeda Ayako

照明……………勝柴次郎
Lighting Design Katsushiba Jiro

蝶々夫人……………〈27日〉 岡崎他加子 並河寿美
Madama Butterfly Okazaki Takako Namikawa Hisami

ピンカートン……………村上敏明 樋口達哉
Pinkerton Murakami Toshiaki Higuchi Tatsuya

シャープレス……………折江忠道 成田博之
Sharpless Orié Tadamichi Narita Hiroyuki

スズキ……………大林智子 山下牧子
Suzuki Obayashi Tomoko Yamashita Makiko

ゴロー……………高橋 淳 内山信吾
Goro Takahashi Jun Uchiyama Shingo

ボンゾ……………〈両日〉 島村武男
Lo zio Bonzo Shimamura Takeo

ヤマドリ……………松本 進
Il principe Yamadori Matsumoto Susumu

ほか

合唱……………新国立劇場合唱団
Chorus New National Theatre Chorus

管弦楽……………東京フィルハーモニー交響楽団
Orchestra Tokyo Philharmonic Orchestra

2010.10/27 (水) 2:00

10/28 (木) 2:00

尼崎市総合文化センター アルカイクホール

【チケット料金(税込)】

全席指定 2,100円(高校生のみ)

当日料金: 2,100円(高校生以下) / 4,200円(一般大人)